

公益財団法人パナソニック教育財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-10 第2ローレルビル6階 TEL.03-5521-6100 FAX.03-5521-6200 URL http://www.kokoro-forum.jp/



公益財団法人パナソニック教育財団



「こころを育む総合フォーラム」は、昨今の様々な社会事象から浮かび上がる 日本人のこころの荒廃に危機感を抱き、はどめをかけたいとの思いを共有する 有識者16名が集い、2005年4月に設立されました。

設立以来、日本人のこころのありようについて討議を重ね、2007年に 未来を担う子どもたちのためにできることを提言にまとめ、発表しました。

提言では、家庭・学校・地域・企業の4つの分野に、それぞれの立場で子どもたちのこころを 育むことを「問い」のメッセージとして、呼びかけました。

2008年、この提言内容を全国にムーブメントとして広げていくために、子どもたちの"こころを育む活動"を応援する、全国運動を始めました。

毎年、全国各地で取り組まれているこころを育む優れた活動を募集・表彰し、 広く紹介しています。

11回目となる2018年度も、たくさんの"こころを育む活動"の応募があり、12月に全国大賞および優秀賞を決定し、翌年の2月に表彰式を開催することができました。

また、長野市芸術館において、長野市立城東小学校(2017年度全国大賞)とともに全国キャラバンを行い、多くの方にご参加いただきました。

本書が、"こころを育む"環境づくりのための取り組みのヒントになり、活動の輪がさらに広まるきっかけとなれば幸いです。

今後とも変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

提言書

発足から計18回の討議を経て、2007年に提言書をまとめ公表しました。

家庭・学校・地域・企業という4つの分野での育みを見直すために、それぞれの 立場でできることを「7つの問い」の形で呼びかけています。

「7つの問い」とは、家庭に向けては「親(保護者)の姿勢が、子どものこころを 創っているという自覚があるだろうか」、学校に向けては「教師は、一人ひとりの子ど もに自信をもたせる努力をしているだろうか」、地域に向けては「地域社会は、子ど もたちが自立して力強く生きていく力を育んでいるだろうか」など、より具体的な提案をさせていただきました。

提言書の詳細は、「こころを育む総合フォーラム」ホームページでご覧いただけます。

http://www.kokoro-forum.jp/project/message.php



Contents [目次]

フォーラムの概要	1
子どもたちの "こころを育む活動" 表彰	
全国大賞	3
優 秀 賞	3
優秀賞)
優秀賞	2
大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程【大阪府】 優秀賞 ····································	1
岡山県立誕生寺支援学校 地域との交流会実行委員会 【岡山県】 優 秀 賞 ··································	3
社会福祉法人 心耕福祉会 【宮崎県】	
歴代全国大賞 受賞団体	3
パナソニック教育財団 紹介)

こころを育む総合フォーラム 活動の経緯

2005年	「こころを育む総合フォーラム」発足
	学界、経済界をはじめ各界を代表する16名のメンバーで発足

2007年 議論をまとめた「提言書」をプレス発表 発足から計18回の計議を経て、提言書を公表

2008年	「全国運動」スタート
	A = L . = > = + L

全国キャラバン、子どもたちの"こころを育む"活動の募集・表彰を開始

2011年 東日本大震災支援活動 (トヨタ財団との共同プロジェクト) 実施

「子どもの居場所づくりと次世代の育成」に向けた取り組みの支援を実施(~2013年)

2013年 「有識者対談」 WEB連載 (東洋経済オンラインとの共同企画)

山折座長を中心に有識者メンバーと「日本人としての教養~次世代に継承したいこと」をテーマに対談 (~2015年)

2015年 フォーラム活動10年

東京にてフォーラム活動10年特別シンポジウムを開催

2017年 全国運動10年

10周年記念表彰式

フォーラムの概要



提言を具現化するために、2008年より全国各地で実践されている子どもたちの"こころを育む活動"を支援する全国運動を呼びかけています。家庭・学校・地域・企業という子どもたちを取り巻く各分野においてそれぞれの立場でできることを意識したさまざまな活動が実践されること、そして子どもたちに持ってほしい"3つのこころ"をバランスよく育むことを目指し、「呼びかける」「紹介する」「ほめる」「広める」の4つの考え方をもとに展開しています。

✓ 全国運動のねらい



✓ 全国運動を進めるための考え方

呼びかける

全国運動の趣旨をより多くの人に知らせ、共感する個人・団体を増やすと同時に、広く社会一般に問題提起をします。

- パンフレットやホームページを作成し、運動の趣旨を多くの人に知らせます。
- ●提言書を発行し、広く社会に呼びかけます。

ほめる

全国各地で実践されている活動の中 から、他の活動の参考となるよい活動 を表彰し、活動の元気づけをします。

- ●主に学校、全国小学校道徳教育研究会、 PTA、NPO団体を通じて、多彩な活動を 募集します。
- ●他の活動の参考となるよい活動を表彰します。

紹介する

全国各地で実践されている活動をより 多くの人に知らせ、それらの活動へ参加・支援するきっかけを作ったり、活動の改善・拡大の機会を提供します。

●活動報告を作成し、広く一般化できる活動 や特徴ある取り組みを集めて紹介します。

広める

全国運動を広めるために、運動に関 心のある個人・団体同士の交流を図 り、情報交換などを促すことで、運動 のネットワーク化を進めます。

- ●全国で多彩な活動を行う団体のネットワークづくりをします。

/ 2018年度の活動[一年間の取り組み]

全国運動

全国キャラバン2018 in 長野

開催テーマ

「共生社会を奏でる」~長野ろう学校との交流を通して~

【2018年11月3日(土)/ 会場:長野市芸術館】

2018年は、2017年度子どもたちの "こころを育む活動" 全国大賞を受賞した長野市立城東小学校の地元である長野市で開催。長野市のPTA関係者を中心に、子どもたちと保護者の皆様を含む約200名が参加して、活動発表や活発な討議が行われました。



城東小学校の先生より、40年以上にわたる長野ろう学校との交流の歩みが紹介され、続いて小学校の合唱団によるコーラスと、交流活動で育まれた両校の子どもたちによるダンスが披露されました。また、柳町中学校の生徒からは、長野ろう学校中学部との交流内容が紹介されました。

パネルディスカッション

テーマー共生社会形成に向けて

~ 「交流教育」 を通して子供たちが教えてくれたこと~

相川良子氏(ピアサポートネットしぶや理事長)をコーディネーターに、パネリスト3名(冨岡隆二氏:城東小学校 教務主任、宮下紀子氏:長野ろう学校小学部長、古澤潤氏:城東小学校 前PTA会長)がそれぞれの立場から交流活動を通しての気づきや思いを語りました。



城東小学校と長野ろう学校の40年以上にわたる交流の紹介



両校の子どもたちの日頃の交流ぶりがうかがえるダンス

子どもたちの"こころを育む活動"表彰

[子どもたちの "こころを育む活動" に尽力されている団体を全国に紹介し、さらに活動を 広げてもらうことを目的に表彰を行っています]

内容

2019年は、2月8日に東海大学校友会館(東京・霞が関)にて「2018年度 子どもたちの "こころを育む活動" 表彰式」 を開催しました。

表彰式には、受賞団体をはじめ表彰に関わる約70名が参加。全国各地から寄せられた多くの活動の中から6団体を表彰しました。

全国大賞は、「高校内居場所カフェ~ 先生でも親でもない大人がいる、文化的シャワー提供の場 ~」をテーマに活動された特定非営利活動法人パノラマが受賞し、優秀賞を5団体が受賞されました。

受賞団体の活動発表では、活動がスタートした背景やさまざまな工夫、参加した子どもたちの成長ぶりが伝わる感想などが、活動を支える皆様の実感とともに紹介されました。

また、表彰式後の交流会は、和やかな中にも活動に関する会話が弾む、活気に満ちたひとときとなりました。会場に展示された受賞団体の紹介パネルや資料などにも、足を止めて興味深く見入る姿が見られました。



当フォーラムの座長、鷲田清一氏から受賞団体へ、賞状と記念の楯、目録を授与する様子



2018年度受賞団体の皆様と小野理事長・鷲田座長他

 $4 \setminus$ 5

受賞団体 活動紹介

全国大賞

特定非営利活動法人 パノラマ 【神奈川県】

高校内居場所カフェ

~ 先生でも親でもない大人がいる、

文化的シャワー提供の場~









選考理由

校内カフェは生徒の参加率が高く、 困難な状況にある生徒たちの癒し の場になるとともに、ソーシャルワー カーなどとの連携による課題解決の 入り口になっているところがすばらし い活動です。

活動の概要と目的

お腹を満たし、社会での生きやすさを育むカフェ

週に一度、さまざまな背景を持つ生徒が集中しやすい教育困難校で、図書館や多目的室を利用した〈居場所カフェ〉を展開しています。

カフェでは、ジュースやお菓子、お味噌汁などを無料で提供し、地域のボランティア8名ほどが参加して、生徒たちとゲームやおしゃべりを楽しみます。参加した生徒たちは、親や先生以外の多様なロールモデルに出会い「生きるストライクゾーン」が広がることで、生きやすさや困難に立ち向かうこころ、人を頼ることができるこころが育まれています。

また、季節の行事などの文化的な機会の提供や就労支援を行うことで、生徒たちの今後の豊かな人生を願い、中退や進路未決定を防ぐことを目指しています。

『すべての人をフレームイン!』を合い言葉に、2014年に活動を開始。貧困などから社会の枠外に追われる子どもや若者の社会的包摂と、子どもを見守る側の啓発による、教育と雇用の接続支援を目的とした活動です。

子どもたちの 変化・成長 カフェに親しみや意味を感じ、多様なロールモデルとの交流から「生きるストライクゾーン」を拡大。また、自分を肯定して生きやすさを身につけ、困難に立ち向かい、人を頼ることができるこころが育まれています。



お昼には、カウンターに続々と生徒が集合。お腹を満たし、会 話や相談もできる時間です。



放課後、カウンターは人気の特等席に。ボラン ティアさんとの会話やゲームで信頼貯金を貯め ています。

── 参加者の声 //-

大切で大好きな場所。も はや第二の家に。木曜日 が楽しみ。最初はお菓子 目当てだったけど、みん なに会えるから行きたくな るようになりました。

(高校2年生)

大人や社会、仕事の大変 な印象が変わって安心し、 「今のままでいい」と気づ けました。大人と子ども が互いの世界を知る機会 がより必要と思います。

(高校3年生)

年齢に関係なく、いろいろな人たちと関わることができるし、ボランティアの人たちからいろいろなことが学べる、すごく楽しい場所。(高校2年生)

より。 50*5*71) ろい 生徒たちは多彩な顔ぶれ こと のボランティアに学び、大 イア 人も生徒たちに刺激を受け ろな ています。知識と経験と夢 く楽 が交じり合い、エネルギー に満ちた場所です。

(ボランティア)

さまざまな大人に見守られ 信頼関係を築ける場が校 内にあることに意義を感じ ます。生徒の笑顔や悩み を共有する中で私達も学 び、支えられています。

(担当教諭)

3つの工夫

進め方 の工夫 カフェのエピソードをフェイ スブックで公開してファンが でき、講演依頼が絶えない状 況です。講演で活動を知った

市民は、養成講座に参加してカフェボランティアに。名前を覚えてもらい、身の上話を聞いて放っておけずにリピーターになることも多く、ボランティア数も拡大。生徒の満足度向上につながっています。

連携 の工夫 /

居場所カフェの活動を、マスコミの取材記事や視察によって広く地域の人々に知っていただくことが、学校の魅力

や信頼につながっています。理事長は、内閣 府などの支援者養成講座の講師を務めており、 教員や保護者向けの研修などへも貢献できる人 材であることが、連携を深めるうえでのポイン トになっています。

継続) の工夫)

居場所カフェを参考に県内12校でカフェ活動が展開。 2018年6月にはカフェサミットを開催し、マスコミに大き

く取り上げられました。活動の周知により会議への出席が認められ、知り得た生徒情報が早く正確に共有されて良い事例が誕生。信用を高めています。継続に最も重要な課題解決に向けて、日々奮闘中です。

将来の活動 の方向性

6

パノラマでは、法人を大きくし、校内居場所カフェを数多く運営するといった考えは持っていません。シェアマインドを大切に、これまでのカフェ活動のノウハウを無償で公開し、自分たちのカフェを研修の場として開放することで、活動を広げていきたいと考えています。

活動の特長

■ すべての人をフレームイン! が目標

不安定で困難な生育環境で育つ子どもは、不登校や中退、早期離職など、社会の枠組から外れ、貧困の連鎖に陥りやすい傾向があります。社会から孤立し、貧困や離職を繰り返す困難な状況になる前に支援ができないかと考え、高校内でのカフェを2014年にスタート。日々の生活の中で安心を感じることができていない生徒の"こころを育む土壌づくり"として、神奈川県内2校で実績を積み、手応えが感じられています。

■ 心身を満たすカフェで信頼づくり

家庭の安定度や生育環境は、こころの成長にも影響を与えます。特に、お弁当を持参していないなど、空腹の状態では言葉も愛情も伝わりにくいものです。カフェでは、生徒の小腹を満たし、親や先生以外の第三の大人との日常会話を通して「信頼貯金」を貯めています。いい大人や多様な人生に触れて社会への期待を高めることが、こころの成長と健全な就業につながっています。

***** 文化・情報の共有から課題解決へ

カフェでは生徒たちが会話やゲームなどを通して信頼関係を築き、楽器や季節ごとのイベントなどで文化的な経験も積んでいます。さらに、カフェで得た情報は、担当教諭やソーシャルワーカーと共有され、課題解決の糸口になっています。2018年は2校で計61回開催し8,753名(1回平均144名)が参加。カフェサミットの開催やノウハウの公開などにより、県内12校でもカフェが開催されるまでに発展しました。



楽器に触れる経験をしたり、学年やクラスを超えた生徒同士 の交流が生まれる場となっています。



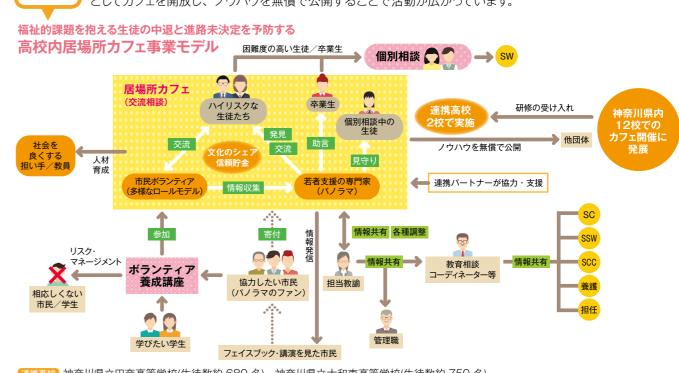
食べ物や楽器、季節のイベントなどの文化的な経験が豊かな人生の糧になればと期待しています。



人の邪魔をしなければ、カフェでは自由に過ごしてOK! バイト 前のひと休みも貴重な時間です。

活動の広がり

カフェの情報をフェイスブックや講演で市民に発信し、支援者やボランティアを確保。他団体へは、研修の場としてカフェを開放し、ノウハウを無償で公開することで活動が広がっています。



連携高校 神奈川県立田奈高等学校(生徒数約 680 名)、神奈川県立大和東高等学校(生徒数約 750 名)

| The image of the image of

※ SW:ソーシャルワーカー、SC:スクールカウンセラー、SSW:スクールソーシャルワーカー、SCC:スクールキャリアカウンセラー

●所在地:〒227-0061 神奈川県横浜市青葉区桜台25-1 桜台ビレジ コリドールR1 ●TEL·FAX:045-479-5996

先 ●E-mail:npo.panorama@gmail.com ●HP:https://npo-panorama.com/

●代表者/担当者:石井正宏(代表理事)

 \uparrow

こどものまちミニかぬま実行委員会「栃木県」

こどものまち「ミニかぬま」







活動の概要と目的

まちづくりを通して社会を学び、生きる力を育む

小学生から18歳までが市民になれるこどものまち「ミニかぬま」を、毎年3月に3日間 開催しています。

こどものまちでは、子どもたちが食べ物や雑貨などのお店を開き、市民として働いたお 給料(ベリー)を使って、自由に買い物や遊びを楽しみます。また、市長選挙や演劇、カラ オケ大会などのイベントも自分たちで企画し、実行しています。大人は意見や価値観を押 し付けず、安全を見守ることで、子どもたちの創造力が発揮され、アクシデントも子ども 同士で協力して対処できています。

子どもたちが、まちづくりから住民自治や社会の仕組みを学び、生きる力を育むことを 目的として2011年に活動を開始。回を重ね、子どもたちは目に見えて成長してきました。 特に子ども運営スタッフは、ここでの経験を生かし、他の地域活動にも積極的に関わるよ うになっています。

子どもたちの 変化・成長

商品の値段や見せ方、売り方など店ごとに創意工夫が見られます。不測の 事態を仲間と乗り越え、自ら助成金申請書を作成し、市長に活動場所の直 談判をするなど、自主性や協調性などがしつかりと育まれています。



つ仕組みも評価できます。

子どもたちが主体的に参画して作 り上げる取り組みとして、地域に定着

しています。1300名が参加するイベ

ントに発展し、子どもたちには成長が

見られます。参加者から運営者に育

楽しく調理をするたこ焼き屋さんと、買い物をする市民(右) です。売り手も買い手も、企画もみんな子どもたち。生き生き と表情が輝いて見えます。



大工の店長が、直剝な表情で仕事を教えています。学年やク ラスの違う仲間との貴重な交流体験の場です。

→ 参加者の声 /-

初参加から約6年、毎年 人と協力することの楽し たくさん子どもの笑顔が 咲く、色あせないイベン トだと思います。「ミニか ぬま」は私の居場所です! (高校1年生・子ども運営 スタッフ)

さなど、多くのことを学び ました。「ミニかぬま」が あってこそ、今の自分があ ります。

(中学2年生・子ども運営 スタッフ)

準備にとてもたくさんの 人が関わっていることを 知って、責任感が強くなっ た。 (小学6年生・子ども運営

スタッフ)

店長はお店の準備をした り、アルバイトにいろい ろ教えたりするので、新 しいことができて良かっ た。(小学4年生・店長)

にせもののおかねで、ほ んものがかえて、すごい。 (小学1年生·市民)

回を重ねるごとに子ども たちが経験を生かし、積 極的に行動しているのが すばらしい。「ミニかぬ ま」は、子どもたちを大 きく成長させる事業であ る。(協力スタッフ)

3つの工夫

進め方 の工夫

子どもの自主性を念頭に置 き、子どもたちと一緒に考え るように意識しています。まず 年間スケジュールを立て、課

題を解決する方法を子ども運営スタッフと一緒 に考えます。定期的にも会議の場を設け、共通 理解を図って子どもたちに寄り添うように配慮。 店長は、店長教育を十分に話し合ったうえで実 施しています。

連携 の工夫

実行委員のネットワークを 活かした物品調達や協力者募 集を行っています。会議での 話し合いに加え、グループラ

インを活用して情報を共有。他地域のこどもの まち主催者との交流も図るようにしています。 実行委員も協力スタッフも、大人が楽しく関わ ることができるように配慮しながら、活動を続 けています。

の工夫

助成金を申請し、地域企業 や個人から協賛を得ることで 資金を調達。毎回、新たに実 行委員会を結成し、組織化す

ることで、一部の実行委員の負担が大きくなら ないように配慮します。子どもたちの「ミニか ぬま」が好き! という気持ちを大切に、参加し た子どもたちが楽しく過ごせる工夫を、子ども たちと一緒に考えています。

将来の活動 の方向性

子ども運営スタッフを経験した卒業生が、今後実行委員となって運営組織を盛り上げていけるように、活動を導いていきたい と考えています。また、こどものまち「ミニかぬま」が、鹿沼市民全体から温かく応援してもらえる事業へと進化することが目

活動の特長

詳子どもがつくる「こどものまち」

子どもがつくる『こどものまち』は、国際児童年の1979年にドイツで行われた「ミニ ミュンヘン」を発祥として、日本各地に広まりました。

鹿沼市では2011年から毎年1回開催し、2019年で9回目を迎えます。

子どもたちは、出店やイベントの企画から実施、アクシデント対応まで主体的にまちづ くりを経験し、大きく成長。大人は見守りに徹することで、子どもたちの能力を十分に引 き出すことができています。

まちづくりで社会を学ぶ子どもたち

店長は、商品がどうしたら売れるかを考えて、価格や見栄え、売り方にも工夫をこらし ます。さらに、学年やクラスの違う仲間と協力しながら「材料がなくなった」「機械が壊れ た | などの問題を自分たちで解決する力を身につけています。また、人の喜ぶ姿をうれし く思い、相手を思いやるこころの成長が見られました。働くことやお金の価値観、人との 関わり方など、まちづくりから社会の仕組みを自然に学べています。

目に見える成長と未来に花開く成長

助成金が不採択となり、活動場所に困ったときに市長に直談判したり、活動を地域へ 広げるために学校長にチラシ配布の依頼をしたりと、自らの意思で社会に向かい、大人 を動かす力を持った子どもたちも輩出しています。

店長の奮闘や運営面での対応力、助け合いなど、準備段階や当日に見られる成長に加 え、子どもたちの中で経験として蓄えられ、未来の大切な場面で花開く、今後の成長に も期待が持てます。



スイーツ屋さんの前は大賑わい。作り手も、買い手も、ひと休 みして会場を眺める子も、みんないい笑顔です。



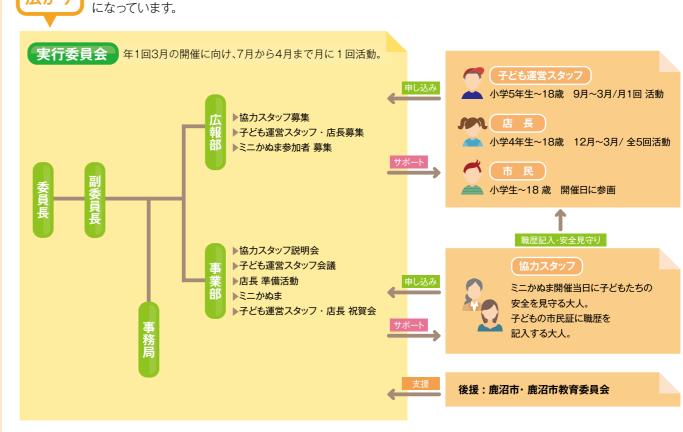
ヘアサロンでは、素敵な編み込みスタイルに変身中。この日 の経験が、将来の夢につながる可能性もありますね。



つゆを注ぐうどん屋さん、表情は真剣そのものです。多彩な 店で賑わうまちでは、イベントや市長選も行われています。



大人も楽しめて、負担の集中しない組織づくりや、活動の仕組みが継続の鍵となり、協力者が集まるポイント



●所在地:〒322-0072 栃木県鹿沼市玉田町60-2 ●TEL:070-1374-7097 ●FAX:0289-78-4988

●E-mail:pro-sora@one.bc9.jp

●代表者: 篠原 徹 (実行委員長) ●担当者: 御地合 直美 (事務局長)

非営利任意団体「生」教育助産師グループ OHANA 「愛知県」

未来ある子ども達の生きる力と心を育む 助産師の「生」と「性」の教育活動







近年、公教育では扱いにくいとさ れている複雑化した性教育をうまく 補完し、児童養護施設での実施も評 価できます。2017年は55講座実施 5年間で累計1万人強の参加者を得る など活動の広がりが見られます。

活動の概要と目的

助産師の経験を生かした「生」と「性」の教育活動

学校などの教育機関と連携を図り、助産師の視点で生と性を伝える『いのちの授業』 を出張形式で行っています。活動を通して子どもたちにいのちの尊さを伝え、青少年の性 被害や自殺防止、親の子育て支援や虐待予防、家庭での性教育の支援となることを目的 としています。

授業では、いのちの始まりや胎児の成長、誕生の仕組みなどをわかりやすく説明。学 年による成長発達段階を考慮し、学校側の意向に合わせて、生と性の両面から内容を構 成しています。教育機関に出向くことで、広く子どもたちの《自尊感情》や《自己肯定感》 を高めることができています。

公共施設や民間施設では、学年や男女別の親子参加、保護者のみの参加など、対象ご とに性教育に関する教室を開催し、相談にも応じています。

児童養護施設では、生徒・職員を対象とした講座や相談事業を展開し、地域によるサ ポートの必要性が周知されることを目指しています。

子どもたちの 変化・成長

いのちが無事に誕生する奇跡を知り、親への感謝とともに、自分が大切 な存在であるとの《自尊感情》や《自己肯定感》を高められています。また、 友達や異性の存在も、自分同様に大切に思うこころが生まれています。



子宮内に見立てた袋に入り、胎児の気分を味わう体験の様 子です。袋から出る子どもには「がんばれ」「おめでとう」の声 がかけられます。



左は、妊婦ジャケットを装着し、母の思いを体感している様子 です。右は、子宮とへその緒を表す手作りの教材で出産を具 体的に伝えています。

→ 参加者の声 /-

げんきにうまれてくるのは きせきなんだとおもいま した。おかあさんにかん しゃしたいです。これから もいのちをたいせつにし ます。(小学2年生)

お母さんが一生けん命産 んでくれて「自分は大切 なそんざいなんだ」と思 いました。この授業がな かったら「自分なんか」と 思っていたと思います。

(小学4年生)

クラスの一人ひとりがあん なふうに感動的に生まれ てきたと考えると、うれし くなります。ここまで大切 に育ててもらって、親には 感謝でいっぱいです。

男の子への性教育の話が 聞けて良かった。なかな か他に聞いたり、相談し たりできなかったので!! (男の子のお母様)

この授業を一人でも多くの 子が聞いてくれたら、今 起こっている青少年に関 する多くの事件が一つで も減るのではないかと思 いました。

(小学校校長先生)

3つの工夫

活動内容が分かるパンフ レットや教材を作成し、教育 機関や公共機関に配布。ネッ トでの告知も随時行っていま

す。また地域の各機関の方々と情報を共有し、 必要に応じて連絡や相談ができるように心がけ ています。一宮市市民活動支援センターの相談 窓口も利用し、運営について常に相談しながら 進めています。

連携 の工夫

年度始めには、実施予定の 教育機関に活動内容や活動報 告を書面で配布し連携を図っ ています。授業が学校での教

(高校生)

育内容と合致してより効果的に子どもたちのこ ころに届くように、出張授業の前には必ず打ち 合わせを実施。内容に関する学校側の希望と 教材の使用について、多様な家庭環境に配慮し つつ確認しています。

の工夫

教育機関に必要な教育活動 と認識してもらうため、授業 後に子どもたちの感想を書い てもらい、効果が伝わるよう

にしています。今後は、公的な事業として多く の子供たちに分け隔てなくいのちや人権につい て考える機会が提供できるよう、教育委員会 や市への働きかけをより一層行っていきたいと 考えています。

将来の活動 の方向性

10

一宮市内すべての小中学校で授業ができるように、公共事業化を目指しています。また、今後は児童養護施設での活動がロー ルモデルとなり、地域の方々に「さまざまな境遇だからこそ地域社会のサポートが必要」と認識していただけることを目指して います。

活動の特長

助産師だからこそ響く言葉がある

助産師は、出産に立ち会うだけでなく、子どもたちの健やかな「生」と「性」を守る予 防教育の役割もあると考え、2013年より教育活動を開始しました。

生命誕生の現場で働く助産師だからこそ、「生」と「性」の両面からいのちの大切さを 伝え、子どもたちのこころに響かせる力があります。また、助産師だから相談できること も多いはず。活動では、子どもの自殺や性被害、虐待の予防、子育てや性教育の支援を 目指しています。

尊さを体感する『いのちの授業』

『いのちの授業』では、子宮に見立てた袋に入って胎児気分を味わったり、妊婦ジャ ケットをつけて母の気持ちを想像したりと、いのちの誕生を体感できる仕掛けが盛り込ま れています。子どもたちは、誕生の奇跡を印象深くこころに刻むことで自尊感情・自己肯 定感を高め、他人を大切に思うこころの成長につながっています。さらに家族や周囲への 感謝、性別を超えて互いの存在を認めあうこころが生まれています。

1万人強の参加者から地域へ未来へ

活動開始の2013年には5講座で80名だった聴講者が、2017年には55講座で5,230 名となり、5年間で累計11,810名に。『いのちの授業』で得た子どもたちのこころの成長 は未来をつくる学びとなり、家族や他者、社会に拡大できるのがすばらしい点です。「生」 と「性」の教育を受けた人が増えることによって、自殺や性被害、虐待の防止に役立ち、 今後は地域全体のこころの平和につながることを期待しています。



カードに開いた針の穴が受精卵と同じ大きさと聞き、いのち の始まりに驚きながら、じっと見つめる子どもたち。



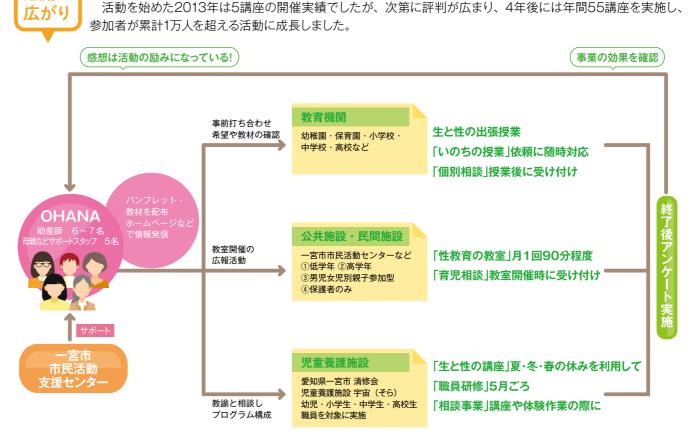
クイズに答えたり 胎児の画像を見ながら誕生生でのストー リーを知り、いのちの大切さを考えます。



胎児の人形をやさしく胸に抱く女の子。子どもの成長段階に 合わせた教材への配慮や、大切なことを自然に感じられる伝 え方の工夫が生きています。



活動を始めた2013年は5講座の開催実績でしたが、次第に評判が広まり、4年後には年間55講座を実施し、



●所在地:〒491-0931 愛知県一宮市大和町馬引郷東 1-12 ●TEL:090-9747-7821 ●FAX:0586-43-4696

●E-mail:ohana.mw2013@gmail.com ●HP:http://ohanamidwife.jp/

●代表者/担当者: 坂井 桃子(会長)

13

大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程 [大阪府]

「ゆめ・チャレ」プロジェクト

~地域の職業体験を通して「こころを育む」~







選考理由

商店街協力による小学生のキャリ ア教育を、定時制高校の生徒がサポー トする部分が特徴的です。高校生が主 体性を発揮しつつ、こころの成長を果 たしています。参加者、協力者の双方 に利益を生む仕組みが評価できます。

活動の概要と目的

高校生と小学生のキャリア教育、地域商店街の活性化をめざす

「ゆめ・チャレ」とは、「ゆめに向かってチャレンジ」の略称。定時制高校の生徒が中 心となり、地域の商店街と協力して、小学生に職業体験をしてもらう活動です。

高校生のサポートのもと、小学生は職業体験をして「修了証」と「お給料」(地域通貨) をもらい、商店街のお店で買い物ができます。小学生と高校生のキャリア教育、地域商 店街の活性化を目的に行っています。高校生はこの活動により、自分に自信を持ち、他者 を思いやる気持ちやボランティア精神を培い、「自己有用感し(自分は社会にとって必要だ と思えるこころ)を高めています。

2013年に第1回を実施(10店舗10体験、応募者107人、参加者68人)以来、体験内 容の充実と体験数の増加に力を入れ、2018年の第6回では、31店舗58体験、応募者 720人、参加者275人という事業に成長しました。この間新聞やテレビで多数紹介され、 近年は府内の高校はもとより、他府県からの視察や講演依頼も増えており、注目されてい ます。

子どもたちの 変化・成長

高校生は自分に自信を持ち、他者を思いやる気持やボランティア精神を培 い、感謝されることにより「自己有用感」を高めることができています。コ ミュニケーション能力やよき社会人となるための職業観も育っています。



仕事体験後にもらったお給料をうれしそうに持つ小学生と体 験をサポートした高校生、協力した地域商店街の人。三者に ウィンウィンの関係が成り立つ「ゆめ・チャレープロジェクト。



小学生が仕事体験後にもらうお給料袋。地域通貨800ユー メ(800円相当・有効期限1か月)を使って商店街で買い物 ができます。

→ 参加者の声 /-

地域の方々や小学生にた「ゆめ・チャレ」により、 くさんの「ありがとう」の 言葉をいただき、「定時制 高校」に誇りを持つこと ができた。(2年生)

普段は人通りが少なく、 シャッターの目立つ商店 街が、たくさんの人で賑わ うようになり活気を取り戻 した。(2年生)

仕事体験中に小学生か ら頼りにされていること を実感することができた。 人の役に立てることがと てもうれしかった。

(3年生)

単なる職業体験ではなく、 私たち高校生が、企業・店 舗の方々から仕事について さまざまなことを学び、学 んだことを小学生に教える。 「教えられる側」と「教え る側」の両方の立場に立 ち、それぞれの仕事につい て深く理解することができ た。(3年生)

什事体験後、「お給料 (ユーメ)」を手渡す時の 小学生の笑顔がとても素 敵で、初めてもらった「お 給料」を大切に使ってい た。自分のほしい物では なく、保護者のために使 う小学生もいて、心が温 かくなった。(3年生)

3つの工夫

進め方

初回は10体験でスタート し、体験を希望する小学生が 年々増加。受け入れ態勢を充 実させるため、地域の企業・

店舗に活動の趣旨、内容を丁寧に説明し、協 力を得られるよう努力しています。小学生の各 職業ユニフォームも種類と数を増やしています。

連携 の工夫

地域連携をするために一番 大切なことは、お互いがウィ ンウィンの関係になることで す。小学生は無料で職業体験

ができてお給料がもらえ、高校生はキャリア教 育にもなり、企業·店舗側はお給料による買い 物で潤う「三方よし」の仕組みです。

の工夫

継続している最大のポイン トは、企画・運営する高校生、 協力していただく企業・店舗、 参加する小学生および保護者

の方々、関わるすべての人たちが心から楽しん でいることです。さまざまな賞をいただいたり、 マスコミに取り上げられたりすることも励みに なっています。

将来の活動 の方向性

12

夜間定時制高校生が「自己有用感」を育みながら未来に希望を持ち、地域の方々をはじめ多くの人が笑顔になれる活動を続 けていきます。また、この活動を他地域に広げる広報活動も展開していきたいと考えています。

活動の特長

定時制高校生の自信と職業観を養う

自分に自信が持てず、基本的生活習慣が身についていない傾向がある定時制高校生 が、小学生や保護者から「ありがとう」という感謝の言葉をもらい、「自己有用感」を高 めることができています。また、高校生が企業や店舗から仕事を教えてもらい、それを 小学生に教えるという両方の立場を経験することにより、コミュニケーション能力が身に つくとともに、働くことの尊さを理解し、よき社会人となるための「職業観」を養ってい

みんなのためになる「三方よし」の取り組み

小学生と高校生のキャリア教育、地域商店街の活性化を組み合わせた珍しい取り組 みです。小学生は「キッザニア」のように各職業にあったユニフォームを着用して職業体 験ができ、「修了証|と「お給料(地域通貨800ユーメ・800円相当・有効期限1か月)| をもらい、商店街のお店で買い物ができます(参加費無料)。商店街の企業や店舗は職 業体験に協力することで、技術を知ってもらえる、売上が上がるなどのメリットがありま す。

社会貢献に目覚め、広がる活動

この活動を通して生徒は社会貢献に目覚め、「ゆめ・チャレ・キャンドルナイト」や 「ゆめ・チャレ・ハロウィン」などのイベント、清掃活動やあいさつ運動など、地域の活性 化に取り組んでいます。また、他の地域に「ゆめ・チャレ」を広げるため、各地に赴いて プレゼンテーションをする広報活動ができるまでに成長しました。他府県においても取り 組んでもらいたい活動です。



和食店の体験で、小学生にやさしく手を添えて包丁の使い方 を教える高校生。



小学生が本格的なユニフォームを着て行う仕事体験。参加 希望者が増えている理由のひとつです。



木工体験をする小学生を、高校生が地域の人に教えてもら いながら丁寧に指導します。

活動の 広がり

すべての企画・運営は大阪府立堺工科高等学校定時制の課程で行い、「文部科学省・経済産業省」や「大阪 府教育委員会 | の協力のもと、地域の多数の団体が協力体制を作り、運営に関わっています。

活動開始からの5年間にさまざまなマスコミで取り上げられ、府内外から視察や講演依頼が多数あるほか、 文部科学省・経済産業省のキャリア教育「優秀賞 |、読売教育賞「最優秀賞 |、時事通信社教育奨励賞「優秀 賞しを受賞しました。

大阪府立堺工科高等学校定時制の課程

教職員31名、生徒数135名

職員・生徒が一丸となり、各チームに分かれてそれぞれの活動を行っている。

- 企画・運営チーム
- 職業体験チーム

近隣地域協力団体·企業·店舗

堺山之口連合商店街振興組合

地場産業関係担当(約10名)

●堺ユネスコ教会教会

●堺北ロータリークラブ

広報·後援(約40名)

●大小路界隈夢倶楽部

●堺銀座商店街

「ゆめチャレ |会場提供(約20名)

会場備品および消耗品担当・会場設営(約5名)

次期開催の視察・打ち合わせ(約100名)

- 企業・店舗新規開拓および趣旨説明チーム
- チラシ作成チーム ▶ユニフォーム管理チーム
- ▶広報チーム
- 地域通貨「ユーメ」使用店舗開拓・「ユーメ」作成チーム

官公庁関係

- ●文部科学省·経済産業省
- 「キャリア教育推進連携表彰 | 優秀賞受賞の広報 ●大阪府教育委員会
- 「学校経営推進費」支援校・「教育諸活動支援事 業|認定校
- ユニフォーム購入資金・講師謝金等の負担
- ●大阪府堺市
- 「ゆめ・チャレ」・「ゆめ・チャレ・キャンドルナイト」・ 「ゆめ・チャレ・ハロウィン」など各イベントの協力 およびホームページ、チラシなどによる広報

近隣小・中・高等学校および大学

- ●堺市立の多数の小学校(約800名) ●堺市立金岡南中学校
- 「ゆめ・チャレ・キャンドル・ナイト |参加および 運営協力(約10名)
- ●堺市立三原台中学校
- 「ゆめ・チャレ・キャンドル・ナイト」参加(約5名) ●大阪府立だいせん聴覚高等支援学校 「ゆめ・チャレ |協力(約5名)
- ●プール学院短期大学
- 「ゆめ・チャレ・ハロウィン」協力(約20名) ●摂南大学
- 「ゆめ・チャレ・ハロウィン」協力(約15名)

• E-mail: mysktg@sakai-t.osaka-c.ed.jp
• HP: http://www.osaka-c.ed.jp/sakai-t/tei/

- ●所在地:〒590-0801 大阪府堺市堺区大仙中町12-1 ●TEL:072-241-1401 ●FAX:072-241-6160
 - ●代表者:中田 浩史(准校長) ●担当者:保田 光徳(首席)

15

岡山県立誕生寺支援学校 地域との交流会実行委員会 [岡山県]

地域との交流会

~友だちいっぱい 夢いっぱい

みんなおいでよ 誕生寺~







選考理由

児童生徒・保護者・住民の協働を 盛り込むことで顔の見える関係を育 んでいること、実行委員会形式で無 理なく長い年月継続し、交流を通して 児童生徒のこころを育んでいること が評価できます。

活動の概要と目的

支援学校と地域を強く結びつける活動を32年継続

岡山県立誕生寺支援学校で1988年より毎年春に行っている地域住民との交流会です。 公民館支館長を実行委員長とし、地域の各団体がコーナー(アトラクション)を担当。住 民と児童生徒、保護者、ボランティア(美作大学生を含む)でグループをつくり、住民が リーダー役となってウォークラリー形式で校内にあるコーナーを巡っていきます。

誕生寺支援学校の校区は広く、児童・生徒はスクールバスや保護者の車で通学するか、 福祉施設から通学するか、寄宿舎で生活しています。校地も市街地から離れており、他 者と関わる機会が少ないのが実情です。そのため子どもたちは、地域の方が学校を訪れ、 一緒に活動する交流会をとても楽しみにしています。また、地域の人々に見守られている 安心感や地域への所属感を持つことができます。地域の人々は子どもたちの成長を楽しみ に学校を訪れ、地域の子どもたちは障害の有無を意識せず、久米南町の仲間として対等 な関わりを経験し成長しています。



支援学校の生徒にとっても、地域の小中学生や大学生にとっても、日々 接している家族や学校の教師以外の人との関わりが、自分の思いを伝えるコ ミュニケーションカや、人と関わる力を育てる機会となっています。



在校生、保護者、地域住民、小学生、中学生、大学生などたくさ んの人が集まります。一緒に楽しい時間を過ごし、「みんなあり がとう!また来年!



中学部生が学習の成果を発揮し、笑顔で「ジュースはいかが ですか?」とサービス。「ありがとう」と返してもらい、うれしい 気持ちがこみ上げます。

→ 参加者の声 /-

長い間には何度か交流会 取り止めの危機にも遭遇 しましたが、子どもたちの 笑顔のために続けてきま した。地域と学校、家庭 がつながり、子どもたち の身も心も育む活動を町 全体で取り組んでいると 言っても過言ではないと 思います。(地域住民ボラ ンティア)

初めは無表情だった車椅 子の女の子が、徐々に笑 顔になってくれました。こ んな素敵な笑顔ができる んだ。皆同じなんだ。た だ少し苦手な部分がある だけ。「みんな違ってみん ないい」。今日改めてこの 言葉を教えていただいた 気がします。

(大学生ボランティア)

ぼくはちいきとのこうりゅ うかいで、ジュースをお きゃくさんにわたしました。 きんちょうしました。でも、 ありがとうといってもらえ て、ぼくもありがとうのき もちになりました。

(中学部生徒)

ぼくはジュースコーナーで 飲み物をお客さんに渡し ました。コップの持ち方 に気をつけました。お客 さんに「ありがとう」と 言ってもらってうれしかっ たです。家族や友だち、 ボランティアの方たちと いっしょにコーナーを周る のが楽しかったです。

金魚すくいが楽しかったで す。地域の人が「どうぞ」 と言ってポイとボウルを 渡してくれました。「がん ばって | と応援してくれま した。ぼくは金魚がたくさ んつれました。楽しかった です。

ぼくは地域との交流会で

(中学部生徒)

3つの工夫

進め方

実行委員長の招集により、 事前に3回程度の準備会議を 実施します。仕事が終わった 夜の打ち合わせにも関わらず、

多くの関係者が参加。町の広報誌や町内放送 で参加を呼びかけるほか、地域の保育園や小 中学校、大学にもチラシを配布します。

連携 の工夫

誕生寺支援学校支援地域 本部は、学校支援ボランティ アの登録者数が約110名、年 間活動延べ人数が1,330名程

度。誕生寺支援学校の後援会が運営するアン テナショップ (カフェ) では、地域ボランティ アの協力のもと、週2回高等部生徒が店員とし て実習し、接客や販売を行っています。

の工夫

(中学部生徒)

実行委員長が学校の職員で はないことで異動に左右され ず、地域住民が主体となって 途切れることなく息の長い実

施ができています。コーナーも、児童・生徒の 実態、社会情勢に応じてそのスタイルを変え、 無理のない形で継続させています。

将来の活動 の方向性

これまでにも地域や子どもたちの様子、ニーズに合わせて内容を変えながら続けてきました。今後も相互に関わり合える関係 を大切にしながら、地域全体がつながることのできるこの活動を大切にしていきます。

活動の特長

地域住民が主体となり、スタイルを変えながら無理のない形で

32年前、「誕生寺支援学校の児童・生徒と一緒にできる活動はないだろうか?」と地域 住民から声が上がり、『地域との交流会~ふれあいウォーク』が発案されたのが始まりで す。以後、時代やニーズに応じてスタイルを変え、無理のない形で毎年実施。2018年6 月の第32回には児童・生徒95名、家族167名、ボランティアを含めた地域の参加者112 名に教職員を加え、総勢436名もの人が参加する交流会に発展しました。

買りている。 町ぐるみで伝え継ぐ子どもたちのこころを育む活動

地域住民の自然で楽しく愛情のこもった触れ合い方に、支援学校の子どもたちは「わく わく感 | や「安心感 | をもって活動しています。支援学校以外の地域の小中学校の子ども たち、ボランティアとして参加する大学生にとっても、自分たちの住む地域との一体感が 生まれ、温かく優しさあふれる活動になっています。また、小中学生時代に参加した地域 住民が親となり、自身の子どもを連れて参加する例が見られるようになってきました。

■「支援」してもらう立場から「協働」する立場へ

第30回までは地域住民がコーナーをつくり、児童・生徒を楽しませることが中心でした が、第31回からは誕生寺支援学校の中学部の生徒もジュースコーナーを担当。このほか、 誕生寺支援学校では、キャリア教育の一環として中学部の段階から地域に出て働く体験 をしています。支援してもらう立場から協働する立場になったことで、「自分も働きたい。 働ける。 という社会へ向かう意欲や自己肯定感を高める機会となっています。



1998年度の様子。当時は校内外でコーナーが行われていま した。手作り感満載の滑り台が、「無理のない形で楽しく」を



開会式でコーナーを紹介する地域の各団体。どのコーナ に行こうかグループで話し合ってスタートします。



地域のゆるキャラ「カッピー」の貼り絵コーナー。交流会には 人気者のカッピーも遊びに来てくれます。

広がり

学校支援地域本部は2012年10月、おかやま子ども応援事業により設置され、「がんばるぞ誕生寺ネットワー ク委員会(外部14名、内部7名) という運営委員会を年2、3回開催しています。また、学校支援コーディネー ター2名が誕生寺校地に出勤し、ボランティアをコーディネートしています。

後援会(外部10名)は2013年に弓削校地が開校した際に結成され、本校の教育活動に関する支援を行って います。「後援会だより」を久米南町広報にとじ込み啓発活動を行っているほか、アンテナショップの運営母体 にもなっています。

アンテナショップは2013年11月、JR弓削駅舎内に久米南町とJRの協力で後援会が開設。生徒の実習の場 情報発信、地域との交流および活性化、生徒の買い物学習、卒業生や保護者の集いの場という役割を担ってい ます。



●所在地:〒709-3603 岡山県久米郡久米南町山ノ城110-2 誕生寺支援学校内 地域学校協働本部

•TEL:086-728-2321 •FAX:086-728-2322

●E-mail:tanjoji@pref.okayama.jp ●HP:http://www.tanjoji.okayama-c.ed.jp

●代表者: 瀧川 信美 (誕生寺公民館 支館長) ●担当者: 菅納 あゆむ (誕生寺支援学校 副校長)

優秀賞

社会福祉法人 心耕福祉会 [宮崎県]

ソダツバヒカリ

~私たちの未来のためにすべてがつながっていく~







選考理由

7つの支援事業を行い、地域の幼児から高齢者までのさまざまな "居場所" になっています。各事業を連動させて問題解決の方向へ結び付けている点、支えられた人が支える側に回り、活動を継続している点も評価できます。

活動の概要と目的

みんなで関わって、みんなで考えて、みんなで育つ場

ソダツバヒカリとは、みんなが一緒に<育つ場>です。幼保連携型認定こども園「ひかりの森こども園」を中心に、学童期の長期休暇を有意義にすべく、異年齢で学びあう「寺子屋」、幼児、小中学生、親、シルバー世代が食事を提供する側、される側という垣根をなくし、空間と時間を共有する「こども食堂」、不登校児やハンディキャップを持つ子も含めて、放課後の学習支援や療育活動を行う「学童・放課後支援事業」のほか、貧困層への食品支援、地域サロンなどの事業を行い、地域の子どもと大人、みんなで関わって、みんなで考えて、みんなで育つ事業を展開しています。

「こども食堂」では、不登校児、ハンディキャップを持つ子どもが支える側に回ることで自分の存在意識を高めることができるほか、「学童・放課後支援事業」では、異年齢児の縦の関係、横の関係が成り立ち、コミュニケーション能力の発達を促し、協力する心が育まれています。



こども食堂、寺子屋、放課後児童デイ、学童クラブなどで自分の居場所を見つけた子どもたちは、自己肯定感を持って具体的未来を考える力がついています。 異年齢でかかわり合う中で、コミュニケーション能力の成長も見られます。



地域の人に提供していただいた田んぽで、稲刈りを終わらせた 学童の様子。



学童・放課後支援事業。支援が必要な生徒と一般の生徒が協力しながら焚火で焼き芋を作ります。

─\ 参加者の声 //-

支援学級の友だちも、普通学級 の友だちも、放課後は一緒に遊 べて楽しかった。もっともっと遊 びたい! (小学2年) 地域の方に貸していただいた田ん ぼで収穫したお米はおいしく、大 切に食べなければと感じた。 (小学5年) 中学生でも困っている人を助ける ことができることを実感できました。人の役に立つことを自分たち でもやっていきたい。

(中学3年)

こども食堂に来ると、小学生、中学生、子育て中のパパ・ママ、赤ちゃんと同じ空間でご飯を食べられるのはうれしくもあり、楽しみな日です。

(地域高齢者)

3つの工夫

進め方 の工夫

ソダツバヒカリの中心となる<アソブバ>、<マナブバ>、< イノチノバ>の考え方を理解し、すべての事業が協力しあ

いながら進んでいます。

連携の工夫

学習支援、子育て支援、貧困 世帯支援、発達支援、放課後 児童支援、地域シルバー世代 支援のメンバーが横のつなが

りで情報共有できていることで、スムーズな事業展開が可能となっています。問題解決の方向性を利用者に提示できるよう連携しています。

継続の工夫

一つの地場でお互いの事業 を支援しあいながら取り組ん だり、支えられた人が支える 側に回ったりして、途切れな

い連携ができつつあります。また、支援者が疲弊し、事業が途切れることのないよう、外部支援事業者の拡充にも努めています。

将来の活動 の方向性

発達障害支援など専門性を持つ支援団体の協力を得ながら、事業内容を充実させていく予定です。また、各事業の連携を深めながら、地域から社会へ視野を広げるような新しい事業の計画も行っていきたいと考えています。

活動の特長

■ お互いの事業を支援しあう、7つの施設の集合体

ソダツバヒカリは、7つの施設の集合体。「ひかりの森こども園」を中心に、放課後児童クラブ「キッズリターンクラブ」、放課後児童デイ「いっぽのひかり」、「寺子屋」、「こども食堂」、「子育て支援講座」、「ビオトープガーデンカフェ」があります。一つの拠点で関係性のある事業を連動させることで、相互に支援しあい、問題解決の糸口が広がるという利点があります。たらい回しにならない連携を行っています。

「ひかりの森こども園」の屋敷園長が住職を務める光明寺で15年前に始めたのが寺子屋です。メディアに依存しがちな長期休暇に子どもたちを集め、静寂の中で学びあいながら、お互い様の心を育てます。寺子屋を卒業した学生たちが「先生」として支援する側に回っています。また、こども食堂では、子どもたちも調理や配膳を手伝います。学校以外の居場所を見つけたことで、自己肯定感を強め、社会の中で活動する勇気を持てるようになっています。

異世代・異年齢での時間と空間の共有が主体性を育む

月2回開くこども食堂「りんりん」は、三股町の傾聴ボランティア団体「すずむしの会」が中心となり実施しています。貧困世帯の支援のほか、地域の高齢者の孤立を防ぐ狙いもあり、子どもたちと高齢者の交流の場として機能しています。どの事業にも共通する異年齢での時間、空間の共有によって、学びあう力、支えあう力、譲りあう力、リーダーシップをとる力が身につき、子ども主体の活動へとつながっています。



寺子屋で自主的に夏休みの課題に取り組む子どもたち。静 寂の中で学びあう関係性を育みます。



こども食堂の様子。地域の子どもたち、高齢者、ボランティア で餅をつき、丸めます。



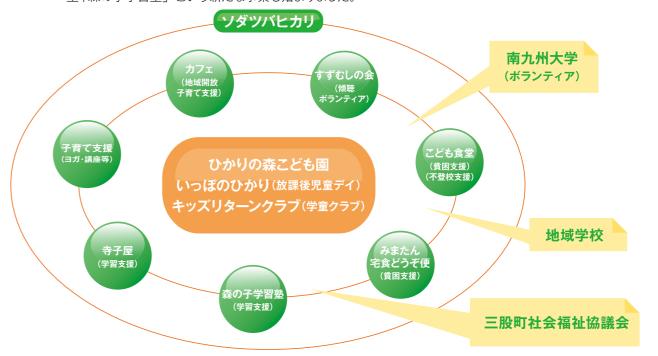
こども食堂の餅つきには、三世代、四世代で地域の方々が 参加しました。もち米を蒸す人、餅をつく人、丸める人。異世 代で協力しあう行事です。

活動の 広がり

ソダツバヒカリは、学習支援、障害児支援、貧困支援の3つを事業の柱にしています。学習支援では、キッズリターンクラブ、いっぽのひかり、寺子屋を合わせて、延べ100名を超える子どもたちが利用しています。

2018年4月、三股町社会福祉協議会と連携した食材宅配型フードバンク事業「みまたん宅食どうぞ便」がスタートしました。18歳以下の子どもがいる希望家庭に対して月に1度無料で食材を配達するという取り組みで、「こども食堂 | から一歩踏み出した現物的支援です。

また、経済的問題、その他の理由で勉強の進み具合が遅れている子どもたちの勉強をサポートする夜間学習塾 「森の子学習塾」という新たな事業も始まりました。



●所在地:〒889-1901 宮崎県北諸県郡三股町樺山3000-2 ●TEL:0986-52-1376 ●FAX:0986-52-1386

●E-mail:contact@sodatsuba-hikari.com ●HP:http://sodatsuba-hikari.com

●代表者/担当者:屋敷 和久(理事長·園長)

連絡先

歴代全国大賞受賞団体 2008年度~2017年度



公益社団法人 群馬県助産師会(群馬県)

〒373-0018 群馬県太田市丸山町250-7/TEL.0276-37-5198

▼ 子どもの自己肯定感を育む「いのちの講座」



山形県立置賜農業高等学校演劇部(山形県)

〒999-0121 山形県東置賜郡川西町大字上小松3723/TEL.0238-42-2101

F-マ 農業高校の視点から、食を伝える食育ミュージカル



▋特定非営利活動法人 オバパト隊(熊本県)

〒862-0913 熊本県熊本市尾ノ上1-39-15/TEL.096-381-2447

(テーマ) 高齢女性パトロール隊による、安心安全な子育で環境づくり



石榑の里コミュニティ(三重県)

〒511-0266 三重県いなべ市大安町石榑南611いなべ市立石榑小学校内/TEL.0594-78-0002

▼一マ 地域全体で子どもを守り育てるための学校と地域による組織づくりと協働活動



東中ファミリーサポーターズ・東中地域活性隊(兵庫県)

〒664-0021 兵庫県伊丹市高台2-54伊丹市立東中学校内/TEL.072-782-3058

デーマ 地域・学校・家庭と生徒たちによる循環型の地域活性活動



|熊本市立出水南小学校(熊本県)

〒862-0941 熊本県熊本市中央区出水4-1-1/TEL.096-363-5671

テーマ 小学校と支援学校の子どもたちが学び合い、成長し合う交流活動



仙台市立南吉成中学校 (宮城県)

〒989-3204 宮城県仙台市青葉区南吉成5-18-2/TEL.022-277-4377

テーマ 大震災から学び、前に進む力を培う、復興支援活動と防災教育



鹿角市立八幡平中学校(秋田県)

〒018-5141 秋田県鹿角市八幡平字諸田4 -1/TEL.0186-32-2226

₹━▽ 郷土愛を育み、人間関係力を培う八幡平ボランティアガイド



和歌山県立熊野高等学校 Kumanoサポーターズリーダー部 (和歌山県)

〒649-2195 和歌山県西牟婁郡上富田町朝来670/TEL.0739-47-1004

ラーマ) 地域に根ざし、地域に貢献する高校生リーダーを目指して



長野市立城東小学校(長野県)

〒380-0803 長野県長野市三輪6丁目14番30号

テーマ 共に学ぶ長野ろう学校との41年目の交流活動~共生社会の形成に向けて6年間の継続交流。

詳しい活動内容はホームページで紹介しています。

パナソニック教育財団事業の紹介 「未来をつくる創造力と豊かな人間性」を育む

パナソニック教育財団は、1973年にICT教育の振興を目的に設立され、40年以上にわたって、小中高等学校等の教職員や研究グループを支援し、ICTを活用した教育の普及・拡大を目指し、研究・助成活動に取り組んできました。

現在は、2005年に立ち上げた「こころを育む総合フォーラム」と合わせ、公益活動の両輪とし、次世代を担う子どもたちの「未来をつくる創造力と豊かな人間性 | を育む活動を行うとともに、その活動内容や研究成果を幅広く発信しております。



「未来をつくる創造力と確かな学力」を培う ために、ICTを活用し、実践研究に取り組む 教育現場に対して助成等を行う事業

こころを育む 総合フォーラム

明日の未来を担う子どもたちのために、 「豊かなこころを育む活動」を 広げ続けていく事業

学校教育に対する研究・助成事業 2018年度活動

実践研究 助 成

ICTを効果的に活用して、教育内容及び教育方法の改善等に取り組む実践的研究を募集(前年度の12月~1月) 「一般 |と「特別研究指定校 |の2種類



①助成金…… 1件あたり50万円

②助成期間 1年間 ③助成件数…73件 特別②

①助成金…… 1件あたり150万円

②助成期間 2年間

③助成件数…4件

4月に助成金の贈呈を行い、1年間授業実践と研究活動を行い、翌年の夏休みに成果の発表を行います。







共同研究

学校現場でのICTの活用をより効果的にするために、関係団体等と共同研究を実施



ICT機器の整備を必要とする各自治体の情報教育担当者向けの「教育ICT担当者コミュニティサイト」の開発研究。



日本教育工学協会 (JAET)全国大会 のワークショップに おいて、ICTを活用 した実践事例と授 業づくりのポイント を発表。

19

https://navi.ictconnect21.jp/sv/

公益財団法人 パナソニック教育財団 ▶ http://www.pef.or.jp/

●詳しい活動内容はホームページで紹介しています。

 $18 \setminus$